

令和4年度 第1回地域家庭教育推進会津ブロック会議

1 開催日 令和4年6月16日(木) 13:30~16:10

2 会場 会津若松合同庁舎 新館2階大会議室

3 出席者(敬称略)

鶴見 常夫	総務省福島行政監視行政相談センター行政相談委員
張崎 貴裕	会津若松市父母と教師の会連合会会長
山口謙太郎	耶麻地区小中学校PTA連絡協議会会長
小林 義弘	北会津小中学校長連絡協議会会長
鈴木 真理	学校保健会北会津支部養護教諭部会長
遠藤由美子	会津若松市生涯学習総合センター主任主査
安部久美子	猪苗代町教育委員会生涯学習課社会教育指導員
春日 謙伸	会津坂下町教育委員会教育課生涯学習班社会教育係長
花積めぐみ	会津保健福祉事務所保健福祉課専門保健技師
宮盛 達雄	喜多方市岩月公民館社会教育指導員 会津地区社会教育指導員連絡協議会会長
増子 恵二	福島県家庭教育インストラクター会津さざなみの会会長
紫藤真理子	西会津町家庭教育コーディネーター
星 佳子	西会津町家庭教育支援員
田中 明子	あいづCAP代表
大竹 民江	会津若松警察署専門少年警察補導員
※(事務局)	会津教育事務所 5名

4 開催趣旨について

この会議は、会津地域の家庭教育の現状と課題を把握し、課題解決に向けた実践活動を推進するため、各郡市PTA連合会・学校代表・企業代表・地域代表による協議を行うものです。

昨年度から、会津地区の不登校増加傾向という課題を受けて、不登校支援をテーマに話し合いを進めています。

今年度は、家庭教育リーフレットの内容検討と今までの中間報告等を実施していきます。

来年度は、家庭教育リーフレットを完成させ広く発信することにより、活用を呼びかける予定です。

5 協議内容について

(1) グループ協議

【親子の会話を大事にする】

- ・ 家族間で「あいさつ」、「ありがとう」、「ごめんなさい」を大切にする。
- ・ 子どもが話しかけたら、しっかり聴く。
- ・ 子どもを尊重し対等な立場で接する。

【子どもの人格を尊重する】

- ・ 「人格」を「人権」に直して、最初に掲載する。
- ・ 「人格」を認めるは、「よさ」を認めると同じ意味なので、その項目に統合する。

【感想】

深い話し合いができた。時間が足りなくなって、後半は十分な協議ができなかったが方向性は、明確になってよかった。

【1班】

- 普段から我が子に対して家族がどう関わるのが大切か



【家族が仲良く過ごす】

- ・ 家庭を安心できる場所にする。
- ・ 意見が違うのは当たり前、何でも言い合える関係を築く。
- ・ 家族は、困ったとき一番の拠り所です。
- ・ 家庭を帰りたい場所にする。
- ・ 共通の楽しみを見つけることで会話が弾む。
- ・ 家族が仲良くすると、心豊かになる。

【感想】

たくさんの意見が出て勉強になった。
不登校だけでなく、子育てのヒントになればいいなと思った。

【子どものよさを認める】

- ・ 子どもの存在自体を認める方がよいので、「よさ」を「ありのまま」に変更する。
- ・ 親の期待を押し付けない。

【地域との関わりを大切にする】

- ・ 子どもが主体の活動を増やす。
- ・ 豊かな体験（出会い）幅広い年代の人に関わる機会をつくる。
- ・ 子どもたちが認められる経験を増やす。

【学校に相談する】

- ・ 学校と家庭が常に情報交換し相談できる関係性を大事にする。

【2班】

- 普段から我が子に対して家族がどう関わるのが大切か
- 我が子が「学校に行きたくない」と言った時、親としてどうするか



【子どもの話をじっくり聴く】

- ・ 否定しない。
- ・ せかささない。
- ・ 指示しない。
- ・ アドバイスしない。
- ・ 説得しない。
- ・ 一緒に作業するなど、安心して話せる雰囲気をつくる。

【その他】

- ・ 西会津町家庭教育相談室「こころのオアシス」などを利用する。
- ・ 相談先一覧に掲載するべき機関の検討をする。

【感想】

様々な立場の意見を聞くことができ、自分のためにも大変参考になった。

【感想】

西会津町家庭教育相談室「こころのオアシス」の実体験に基づいた話を聞かせて頂き、とても参考になった。

【専門機関に相談する】

- ・ 身近な人に相談する。例えば、学校、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、相談員に相談しながら適切な機関へ繋いでいく。
- ・ 発達障がい、うつ病、※起立性調節障害(OD)、の疑いがある場合は、病院を受診する。
- ※ たちくらみ、失神、朝起き不良、倦怠感、動悸、頭痛などの症状を伴い、思春期に起こりやすい自立神経機能不全の一つ。

【3班】

○ 我が子が「学校に行きたくない」と言った時、親としてどうするか



【日常の生活リズムづくりへ】

- ・ 昼夜逆転にさせないために、昼間学校へ行かない時間を工夫する。
- ・ 家族構成は様々だが、あえてみんな同じ生活リズムで行うことも大切である。

【待つことの大切さ】

- ・ 親も落ち着いた態度で、そっと見守る。
- ・ いつでも話を聞く準備を整えておく。

【感想】

皆さんの活発な御意見を伺えて、日ごろ感じていることを共感することができた。
今回は、項目が限定されていたが、それ以外についても話合いがあってもよかった。

【感想】

リーフレットの対象や配布方法についても明らかにしながら作成していく必要がある。
連携の図は複雑なので、最初の窓口を分かりやすく提示したほうがよい。

(2) 協議のまとめ (委員長)

- ① 「普段から我が子に対して家族がどう関わるのが大切か」について
 - ・ 否定しない、説得しない、子どもの話をじっくり聴く雰囲気づくり
 - ・ 学校と保護者の信頼関係づくり
 - ・ 地域との関わり (幅広い人間関係)
 - ・ 相談先電話番号掲載 (ワンストップ相談窓口など) の工夫
 - ・ 安心できる居場所づくり
 - ・ 生活リズム (昼夜逆転させない工夫)
 - ・ 家族が同じ方向を見た生活リズム
- ② 「我が子が学校に行きたくないと言った時、親として何をすべきか」について
 - ・ 子どもの話をしっかり聴きながら、普段から親子の会話を大切にする
 - ・ 家族が仲良くし、家庭を安心できる場にする
 - ・ 子どものありのままを認める



6 本会議の成果と課題について

〈成果〉

- ブロック委員の皆様事前にワークシートを配付しておいたことで、グループ協議がスムーズに進められました。
- グループ協議では、それぞれの立場から不登校の実態や支援の方法について活発な意見が出され、深い話合いができた。また、家庭教育支援リーフレットの方向性が明確になりました。
- 西会津町家庭教育相談室「こころのオアシス」が実際に行っている具体的な取組をブロック委員の皆様にも広めることができました。

〈課題〉

- ブロック委員の皆様からの様々な意見を参考に、家庭教育支援リーフレットの改善を図りたいと思います。
- 家庭教育支援リーフレットを誰に、どのように配付していくのか明確にしながら作成していきます。